

第1回広域計画等フォローアップ委員会 議事録（意見交換抜粋）

日時：平成30年1月31日 16：00～18：00

場所：関西広域連合本部事務局大会議室

■意見交換

○御厨座長

それでは意見交換に入りたいと思いますが、本日は委員会委員13名にご参加いただいているという状況で、また委員会の初回でもありますので、各委員からこれまでの広域連合の取組や今後の広域連合が取り組むべき課題等について、ご意見いただいてそれで意見交換するのが妥当ではないかという気がいたします。

本日ご欠席委員からは事前に意見は届いているんですか。

○事務局（日裏課長）

いいえ。ありません。

○御厨座長

なければ、各委員からご意見を述べていただくことになります。時間が大分おしておりまして、17時になっておりますので、そんなにたくさんの時間はとれませんが。まず、何か言っていたかしないと次にいけないので、どうでしょう。先ほど事務局からの説明で、早くて中身がいっぱいあって中々整理の難しい中で、それぞれ感じたことがあると思いますから、それを含めてお話をいただけると、具体的になっていくのかなど。いかがでしょうか。北村先生、ご発言いただけますか。

○北村委員

私は、先ほど事務局から説明のありました関西の展望研究会に関わらせていただき、国土の双眼構造と人の環流を促すという二つの大きな視点は大事だと思っております。とりわけ人の環流を促すという点では、この研究会でも議論になったんですけども、関西というのは他の地域と違って都市と農村とのバランスという面では、日本

の他の地域に比べて、比較的よく取れている地域で、21世紀型の都市と農村との交流みたいなものが、新たに発展する可能性があると思っています。例えば、中山間地へのIターンという問題にしても、和歌山県が先頭を切って、そのあと鳥取、徳島と非常に先進的な動きがあって、そういう実践を踏まえておりますので、そういう面で新しい可能性を切り開く分野として非常に注目をされています。広域連合としてはそういう新しい分野について、連合として取り組める課題を一つひとつ取り上げて、重点的に取り組んでいくということが大事だろうという感じがしてるんですね。

実は私は、関西広域連合で道州制のあり方検討委員会の委員を仰せつかって議論に参加し報告にまとめる作業に関わりました。道州制といっても、地方制度調査会で検討されているような都道府県をなくして道州をつくるのではなくて、むしろ基礎自治体である市町村の分権を支える広域行政は一体何だろうと議論いたしまして、タイプとしては、企画立案・総合調整型と、府県連合型とそれから基礎自治体補完型という3つのタイプを府県の存続をある程度前提にして検討しました。そういう形で、新しい広域行政のあり方の提言をしたのですが昨年の7月に中国経済連合会の講演に呼ばれまして、その内容を中心にして、これからの広域行政のあり方をお話をする機会があったのですが、そのときに中国電力の方も含めて、多くの委員からいただいた意見は、これは関西広域連合のこれまでのこの実践を踏まえた案でよくわかったというご意見でした。府県を超える広域行政を実際に実践してるのは、現在のところ関西広域連合しかないのです、その意味では府県を超える広域行政を、分権を進めるという観点からどう実践し展開すべきか何か重点を決めてやっていく必要があるのかの検討は重要です。その面ではこれまでドクターヘリとか、それから東日本大震災とか熊本の震災の時の府県分担とか、それから琵琶湖淀川水系の広域的な管理の問題をどうするかでいくつか実績があるんですが、それに加えて、今後どこを実践するかというときに、ひとつ冒頭に申しあげましたけれども、新しい都市と農村の交流みたいなものを関西広域レベルで検討するというのは、今日のこの委員会のメンバーの顔触れを先ほ

どお伺いしてて、深められることができるんじゃないかと、思った次第でございます。

○御厨座長

はい。ありがとうございました。では、いまかなり積極的なご意見を頂戴いたしましたけども他に皆さんの方から、どうぞ今のことに関連してでも、あるいは私はこう思うというものでも構いませんので、挙手をして。いかがでしょうか。どうぞ。

○衣笠委員

私、先ほどもご挨拶で申しあげたように農業関係なんですけど、私もこの委員に選ばれて、関西とは何ぞやと、私ら関西ってよく使うのん何やろと思ったら、関西風調味料とかね、あと関西弁ですよ。それから、こういうのも我々委員ばかりではなくて、最終的には各都道府県の県民にもやっぱり賛同していただかないとダメなんかじゃないかと。その重要度とか短期的に取り組めるとか、そういうのはまた出てくると思うんですけども、やはり例えば農業でしたら、兵庫県なんかは自給率36%かな。関西広域連合のメンバー全部入れたら自給率っていくらになるのかなと。そういうのって県民とかね、市民皆関心持つと思うんですね。そういうところを出しながら、最終的に関西広域ってというのはこれだけのメリットがあるんですよっていうようなところが見えたら、たぶんもっともっと認められていくのかなと。

あと、特に農産物の認証なんて都道府県でバラバラなんですね。そういうのを関西は一つにしようっていうことになれば、関西で採れた農産物は安心だよっていうことで、もっとモノも動き出すのかなと。そうなったときに物流っていうのがキーになってくるんですね。やっぱり近くでしたら燃料も少なくて済むんですから、そういうふうな感じで絵を描いていけたらなと。

もう一つ私いつも懸念しているのが、各都道府県にある農業技術センターです。もう平均年齢、兵庫県なんかは48才ですよ。知事に言うたんですわ。「12年後にももう閉めてるんですか。」って。やっぱり職員の高齢化、農家だけじゃないんですわ。ですから、そういう高齢した人が一生懸命なれるっていうたらね、例えばコメは滋賀県。

米を研究している職員全部滋賀県に行けと。それで、とことんそこで米をやれよとか、果実は和歌山やぞとか、何かそうやって競い合いながらも協力できるような体制、そういうのができたら嬉しいなど。

あと、職員の交流ですね。今、兵庫県なんかは、京都府から農林関係は職員が来てくださって、結構活性化してます。そういう方らが、各都道府県に帰られたら、兵庫県はこんな取組してますと、簡単なところはマネしましょとか、そうやって協力体制っていうのは徐々にでもできていくんですね。そういうのをまずできるところをご提案というか、この会を通じて、各都道府県の県庁なりに提案できたら交流も進んでいくかなと。私は簡単なことしかよう言わんのですが、そういうことを感じました。

○御厨座長

今、衣笠さんが申されたのは具体的なものについて、具体的な例が出てくるとそれについて皆の食いつきがよくなって、それをいくつか重ねていくとモノがもう少し見えてくるってそういうお話ですよ。

○衣笠委員

そうです。

○御厨座長

はい。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。はい。どうぞ上村さん。

○上村委員

関西広域連合もちょうど今、設立から変遷を経て位置付けを変えていく時期なんだろうなと感じました。当初はですね、本当に独立運動もあり得るかというぐらいの元気がおそらく政治的にあって、スペインのカタロニア地方みたいになるのかなと一時期は思った時期もあったんですけども、それは置きまして、今の日本の中央集権制度の中でいかにもう少し逆に目一杯有効に枠組みを使うのかというふうに変ってきてるし、変わっていかざるを得ないのかなと思います。先ほど、関西創生戦略は交付金

をもらってるという話を聞いて、そういう意味では、例えば出先機関の地方移管であるとか、権限の委譲だとかというような看板をどこまでこれからも挙げ続けるのか、もう降ろすのか、そういう意味においては、立ち位置を変えていかなければいけない時期に来ているとまず第一に思いました。

そこでなんですけども、最初のご挨拶の中にもありましたように、やはり財源と権限と責任という、それがなかなか難しいなということなんですけども、その中でじゃあどういうふうに目一杯やっていくかという中で、PFI、PPPコンセッションをもっと進めることを申し上げたいと思います。やはりいろいろなプロジェクトがこの中にもたくさんございますが、ある程度中央の財源だけには頼らないところと、もちろん財源を入れてもらう、目一杯おねだり上手になることも一つ大事なんですけども。手法として、関西は(株)関西エアポートの2.2兆円という、日本で初めての大型コンセッションを成功させた訳です。なおかつ、初年度から18.5%配当ですよ。関西エアポート。それくらい民のお金が入ると、民間資金を入れていくと、どれだけ皆が真剣になって仕上げていくかということの一つモデルでございますし、その割には、関西地域における次に続くPPP、PFI案件は他の地域に比べて決して多いとは言えません。むしろ少ないと思います。空港、今度神戸空港も一体になりますけども、よその地域ではもっと空港の民営化、地方道路の民営化、上下水道の民営化、それからいろんな施設、スポーツ施設から市庁舎建て替え全部PPP、PFI使って、さっきの財源というようなものを少しでも国に頼らないやり方でやろうとしておりますときですから、これをもっと増やしていくということが2点目です。

3番目。もうこれで終わりなんですけども。直近の関西における話題と言いますとやはり万博誘致ですね。何と言っても。これもフランス、パリが降りましたから多少風向きが大分変わってきましたし、この万博を何とか軸に関西のみならず日本全国一丸となって、やっぱり前の1970年の大阪万博を知ってる世代としては、なんかこれをもっと梃子にしていくようなまとまりを持つべきです。その他にもIRとかワールド

マスターズとかいろんな行事もありますけども、一つにシンボリックにまとめられるものを、やはりここでしっかりプロジェクトとして軸にしていってはどうかというふうに思います。以上でございます。

○御厨座長

はい。ありがとうございました。では、それに引き続いていかがでしょうか。ご意見のある方はご遠慮なく。いかがですか。梅原さんいかがですか。

○梅原委員

私、資料があるのですが、ちょっとお配りしておきますけれど、5分ぐらいで。展望研究会では、藤井聡さんと一緒になって、東京、まあ関東と大阪を含めて、関西の決定的な格差は、一にかかって新幹線網が決定的に遅れているということはずっと申し上げてきました。

東京は、先ほど昭和39年、1964年に東海道新幹線が東京－大阪間にできた。この点までは対等ですよ。それから北海道から九州に至るまで全ネットワークを組んだと。関西は、京都、大阪、神戸もそうですけど、東京から鹿児島中央に行く一中間駅に過ぎないということですね。この決定的な差がこの格差をもたらしているということはずっと申し上げてきました。

リニアとか北陸新幹線について、北陸のルートが決まったとか出てますけど、リニアはさておいても今頃北陸が金沢で止まっているというのが、完全に関西の政財界の怠慢であるというように思います。

あるいは、恐らく関西は、僕も金沢で管理局長をやって、最後の国鉄を見ていたわけですけど、要するに北陸から見て関西が絶対新幹線が欲しいという声は全く聞こえなかった。恐らく関西では、「北陸新幹線は、あれは、北陸の人の新幹線だ。」これは大間違いだと思うのです。やはりそれは北陸のためでもあるけれども、同時に結ぶことによって関西のためにもなると。そう言うような意識が欠けていて今頃になって慌てて「来て欲しい、来て欲しい」となっている。リニアは別としましても、そんな形

になっているのがおかしいですよと。だから、それはそれで一応ルートが決まって、いつできるか分かりませんが、その同じ失敗をぜひ関西広域連合としてやるべきではない。これは藤井さんも盛んに言っておられました。

これはやはりインフラを考えるときには、8府県だけで考えてはいけないと思います。もっと北陸全域とそれから四国、徳島だけ入っているのはおかしい話ですけども、やはり山陰とか岡山、広島、これを含めて、それぐらいまで影響を考えるような形でインフラは考えるべきだと。

そういうようなことを考えると、四国新幹線、私たまたま四国におりますけれども、四国人口400万、岡山の倍おります。しかし、関西から見られて四国は見えていない。そういう中で四国の人はいま元々関西と兄弟関係にあったわけですが、完全に今東京の子分になっている。こういう感じですね。

従って四国新幹線は、言い続けておりましたがけれどもこれは基本計画線が要するに両方の海峡を歩いていく線とそれから鳥取の方からずっと瀬戸大橋を歩いてくる線と2つありますけれども、これを一本化して、お手元にそれを資料として渡してありますけれども、それをずっと四国一体となって、政財界一体となってずっとやってきました。

ここで、展望研究会で言うと同時に、私も関西経済同友会に22年ぶりに入り直して、それで色々話したと。最初話したときは、関西の人は、私も関西人ですからきつく言うのですが、「四国なんて」という感じがあったんですね。とんでもないですよ、400万いるんですよと。といった中で今は関西経済同友会と四国経済4同友会とガッチリ手を組んで、それで四国新幹線は関西と一緒にやっていこうという形になって、関西経済同友会の機関決定もしてくれました。

そういう中で国の方もまったく歯牙にもかけなかったのだけれども、今度まあ本年度の予算で全国的高速ネットワークという括りにしていますが、肝は四国新幹線です。2.8億円の調査費がつかしました。調査費がついたのはかなり大きな話しです。そ

の調査は、瀬戸大橋は新幹線が通れるような設計になっていますが、それをもう一度チェックする。それから四国の愛媛の方で、今治の方で半島がある、あそこをぶち抜く先行投資をやったらどうかということ。

もう一つ私どもが提案していることは、基本計画線という形にこれからなるのですけれども、整備新幹線はあともうちょっとで終わりなので、基本計画線が作ることが前提になっていない基本計画線を作るべきだと言っていますが、これについては東京、大阪の東海道新幹線のモデル、そのものをやる必要はない。人口もそれと比べて少ないのだし、それから技術も53年前にできた東海道新幹線に比べて、技術も今、格段に進歩している。AI、IoT、それからGPS。で、53年前にできた新幹線は相当速度も上がってきておりますけれども、これは53年前の技術モデルを改良したのに過ぎない。これからやる新幹線は、単線で良いと我々言っています。四国新幹線は、まあ瀬戸大橋のところは、複線ですけれども、四国内部は単線で十分だと。安全は複線と同じだけあると。そういうことで要するに経費を節減すると同時にですね、新しい技術ですね、例えば専門用語で恐縮ですが、信号が全部軌道回路方式、明治からのやり方ですけれども、今や無線、それからおそらくGPSでやるべきだと。そういうなことで新しい技術を今度やる基本計画線、四国はまず先頭切ると思いますが、まず単線でやって、コストを格段に落とすと同時にもっと違った素晴らしい技術を全部使う。そういうことによって、日本全体で地方創生の切り札は新幹線だとも言いますが、それと同時に国策でインフラを世界に輸出する時に東京・大阪のモデルを持って行ってもこれは高く、高いだけではなくて技術的に言うとこれはJR東海に叱られかも分かりませんが、技術は伸びているのですけれども、ブレイクスルーしていないと。リニアは別です。

従って、もっとすごい技術を持って、例えば単線が中心になるけれども、安全をもっと向上する、そういったものを、四国新幹線をモデルとしてやっていくと。そういうことを考えていくべきだと。

関西広域連合としてはそういう形で今来ていない北陸新幹線を追いかけるとカリニアを追いかけるのではなく、自ら進んで全体の要するに新幹線について声を出すべきではないかと。こういうことであります。そういう意味では関西広域連合の8府県は狭すぎる、もっと広く考えていかないと、北陸の新幹線は北陸の人の新幹線だという誤解を生む、まあその失敗を繰り返さないようにこれからやるべきだと。それが関西広域連合の仕事じゃないかと。そういうことで今、お配りした資料にちょっと述べてあります。

○御厨座長

はい。ありがとうございました。それでは他にいかがでしょうか。こちらのライン。はい。それではよろしくお願いします。

○坂上委員

観光の視点から3つほど。日頃、観光文化計画の方でご意見を申し上げているのですけれども、3点ほどの課題を申し上げたいと思います。

ご存じのように、観光は手段だと思っています。観光は地域をいかに豊かにするかということが目的なので、そういう理解の下で発言をさせていただきたいと思います。

今、海外からの日本の魅力の評価が非常に高く、海外からのインバウンドと言われるお客さんが非常に急増しております。先ほどご案内がありましたオリンピック、万博、大型スポーツイベント、こういったものが非常に追い風になっているのですけれども、この追い風を関西でどのように活力につなげていくかということが大きな課題になっております。

しかし、現実を見ると観光は、過疎と過密が極端でございます。京都、大阪はものすごく多くの方が、観光客が来られてもう来てもらいたくないとこういうニュアンスも漂っていますけれども、本当に関西の中では一部でございます、地方部においてはまだまだこの効果が出ていない。こういう意味で美の伝説とかいう言葉で広域的な観光ルートを作ろうという動きはしていますが、この中でも広域連携、DMOという

組織を作って、これからやっていくということになっているのですけれども、先ほどから議論があります財源が非常に弱い。

これをどのようにするか。新聞では関経連さんと広域連合の会議で、関西全体で観光税の導入についてご提案があったという風に拝見をしておりますが、大阪市、京都市は観光税を導入していますが、関西全体で新しいフレームとして観光税というものを検討されて、これを広域的につなげていくことが課題です。恐らく京都市と大阪市は、自分のところの税金で自分のところのPRしかしてくれないので。関西は結果的に国の財源を使ったり、あるいは広域連合の自治体さんから補助金をもらってやるということになるのですが、なかなか強力に進めることが難しいので、検討課題として観光税の導入というものをぜひ検討されてはどうかというふうに考えております。

国の方では出国税をとってこれを観光に回すという考え方ですが、もう少し率先して地域振興のために観光を目的にどう税を徴収してそれをどう還元していくのかということをご検討すべきではないかなと思っております。これが一点目でございます。

2点目は、観光はインバウンドの時代は、ぼちぼち終わりつつあって、インバウンドの人たちが関西の魅力を感じて、あるいはお土産物を買って、素晴らしい芸術や文化を見て、それを結果的に輸出につなげていく時代になっていると思います。農林水産業でも国内消費ではなく、海外消費。伝統文化もあるいは伝統工芸も海外で再評価をする時代になってきていますので、単なる海外の人たちが遊びに来ることを誘客するステージから次の現地に帰られて、国に帰られて関西のものを購入いただく、そういう風につなげていく段階になっていると思います。このことを2つめの是非課題にさせていただきたいと思っておりますので、観光と輸出との連携、というのが次のテーマになるのではないかなという風に感じております。

3つめは、観光の裏返し働き方改革でして、働いていないときのいかに豊かに暮らすかということはいかに豊かな観光ができるかということになるのですけれど、

今、国内観光は非常に衰退というか低迷をしています。つまり、私たちが働いていないときの豊かな時間というものがなかなか構築できていない。恐らくこれだと海外からのお客さんもいつのまにか日本人は働いてばかりで豊かな人生で暮らしていないと来てくれないという結果になりそうであります。

文化庁が関西に移転をしてくまして、これから文化を元に関西が日本のモデルになるような展開をぜひ示していく必要があるかなと思います。親子の時間、家族の時間、あるいは夫婦の時間、自分の時間、こういったものをいかに関西が豊かであるかと。恐らく、先ほど首都圏との比較が出ましたけれども、観光・文化については、恐らく関西の方が勝っていると思うのです。ぜひ、関西のライフスタイルというものをお祭りとかあるいは、はじめ文化・芸術をいかに豊かに私たちは身近に感じる圏域であるかを示し、創造していくことが必要です。関西では、こういったことを目指していくということが働き方改革の裏側で作られていく必要があるのではないかと。そうすることで、結果として観光にとってすごく良い環境を作っていけるのではないかなという風に感じております。

以上、3点でございます。

○御厨座長

はい。ありがとうございました。それではいかがでしょうか。はい。では、よろしく申し上げます。

○木村委員

私も3点ほど申し上げたいと思います。

第1点目は、展望研究会の報告書もできて重要なことが網羅されておりますので、すでに着手しておられるものもあるかと思いますが、これをどう実現していくかという工程表などを作って詰めていくことが重要ではないかと思います。

第2点目は、外から関西を見ていると、やはり関西はソフトの面白さであると思います。外国人観光客のことを坂上先生がおっしゃいましたが、日本は観光立国を目指

しますが、観光立国に成功している国は、どれくらいの観光客が外国から来るかと言いますと、自国の人口を超えるくらいの観光客が来ています。訪日外国人は、人口の2割ぐらいに留まっていますので、関西についても今の5倍ぐらい外国人観光客が来ても何も不思議ではないと思います。その時に、坂上先生がおっしゃられたようにそれをどう活力として、単に観光だけでなく製品やソフトを売るときに利用できるのかという視点をもう少し強化しても良いのではないかと思います。ソフトに着目しますと、関西は街づくりにしましても、福祉の共助のシステムにしましても、国内で非常に先進的な事例が多いのですけれど、専門家には知られているのですが、一般の方にはあまり知られていません。

それからBIDとか新しい形で、大阪駅の近くでも再開発がなされましたけれども、やっぱり有名になるのは、渋谷の再開発ですので、自らをアピールする上での発信等の点でももっと努力がいるなということです。

第3点目は、先ほど飛行場、空港の話しができましたけれども、東京の方は羽田空港を重点的な国際空港としてさらに発展されるために、空港自体の問題と公共交通を充実させて、関東各地と羽田空港にいかにより早く近づけることができるかという視点で整備計画が進んでおり、また、道路についてもそういう視点で整備されつつありますので、関西は少しのんびりしているのかなという気がします。

以上、3点です。

○御厨座長

はい、ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○加渡委員

それでは二つの点から申し上げたいと思います。

まず一点は広域内で、人とノウハウにつきましてどれくらい共有が進んでいるのか、あるいは共有をしなければいけないのかという問題です。

観光にしましても、産業振興にしましても、文化、スポーツ、働き方改革、それぞ

れの分野で各自治体というのは既に様々な取組を進めていると思います。ただ、自治体ごとですので、かなり独自性は強いと思いますが、既に取り組んでいる自治体の取組の中で広域性、広域で応用できるもの、汎用性を持ったものをどんどん共有する必要があると思います。

いろんな資料で拝見しましても、やはり人とノウハウの共有につきましてはなかなか進んでいないと感じます。

さまざまな取組に関しまして、例えば、地域の魅力を高めることや、人材育成・ワークライフバランスの分野にしましても、必ず、キーとなる人、あるいはキーとなる団体、あるいはキーとなる大学というのが存在します。ですから、まず、キーパーソン、キー団体、キー大学に関する情報をしっかり吸い上げて、育てていくということと、各自治体の取組の成功事例を収集して、それを広域でどのように応用できるのか、どの点が応用できるのかということの検討を具体的に進めなくてはならない、それが第一点目でございます。

2点目は広域エリアでの大学間交流です。地方の県といいますのは、人口流出が2回ございます。1回目は18歳、つまり大学の進学の時、2回目は就職の時です。これはそれぞれの県はもとより、関西広域全体としても考えなくてはならない問題です。まず、18歳の進学の時に関西広域からいかにして出る人を少なくするか、つまり若い人を関西広域の中に残しておく、それが将来的に人口流出を広域連合として食い止める大きな手段になると思います。ですから、例えば、いくつか案が書かれておりますけれども、大学における単位互換制度でありますとか、研究者、教員の研究環境の共有化、あるいは教員の教育活動の流動性、つまりポータビリティを持たせるということを中心に、様々な工夫によって、まずは18歳から19歳になる時点で、若い人口を関西広域連合の中から流出をさせないことが大切だと考えます。各県としてはプラスマイナスがあるとは思いますが、関西広域連合のエリア内にこそ流動性、ポータビリティを持たせることによって、最終的に自分の県に帰ってくるという仕組みづくりが必

要なのではないかと考えました。以上、2点です。

○御厨座長

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。まだご発言のない方でぜひ。どうでしょう。はい、どうぞ、よろしく。

○松永委員

前回、2、3年前に展望研究会で議論した主に2つの方向、国土の双眼構造と人が還流するモデルですけれども、ちょうど議論のベースになっていたのが、国の地方創生の議論とあいまって議論していたのが背景だったと思います。ですので、関西圏というのは、中長期に見れば人口減少していくことは免れえない。だけれども、そうした中で関西地域をどう維持していくのかということが焦点に置かれていた中で、苦肉の策ではないですけれども、人が環流するモデルというものを独自に提言したというのが、展望研究会の特徴だと認識しております。

当時、還流の時にイメージされた人物像というのが、おそらく2地域居住、いろんなパターンがあると思いますけれども、働くのは都心で、ワークライフバランスで週末は地方で、あるいは定年退職後は地方でという、いろいろな関わり方があると思うのですけれども、人口が減少する中で、一人の人のライフスタイルを通じて、働いていた場所だけではなくて、関西プラスアルファの地域で積極的に複数の地域に関わりを持っていきましょうという提言だと思うんです。ただ、この2、3年の状況は、やはり関西広域連合のみならず、各都道府県、特に市町村レベルで、特に若い世代でIターンというのが如実に伸びたというのが、多分、価値観の転換であるとか、働き方改革もあると思いますけれども、価値観が非常に変わってきていたことも追い風になっていると思うんです。そこで、やっぱり、一方で、あまり議論に出てなくて、抜け落ちたなど今から思う点がやはり観光。先ほど来、先生もおっしゃっておられますけれども、やはり、大阪、京都はこの2、3年で本当に、そこで住んでいる者からしたら、大阪の難波なんていうのは、まったくアジアの1都市、過密都市に変貌してい

るという点もあると思います。ですので、人が還流するモデルのところに、やはり外国人の観光、先ほど坂上先生もおっしゃった、まさに大阪市、京都市に集中していますので、それをどう関西に、第2の還流として海外の観光客を誘致していくのかということ、これは環流モデルの広域的な解釈として考えていく必要があるのではないかと思います。

それから、もう一つ、国土の双眼構造の方も、当時は東日本大震災のことをかなり、もちろん、阪神淡路大震災を踏まえてですけれども、やはり防災というのが第一義的に考えての双眼構造であったと思うんですが。人口減少社会で、数日前の新聞にも東京圏だけがやはり人口増加で関西圏は依然人口マイナスということが出ていましたけれども、やはり経済機能が衰退していること、先ほど、梅原委員から四国新幹線のお話がありましたけれども、西日本の中で関西の地位というものがここ10年、20年で確実にやはり相対的にかなり落ちていると思うんです。かつてなら、関西だったら、九州や四国出身の人が結構いたと思うんですけれども、ほとんど東京に出ていくという構造が成り立ってしまっている。やはり、西日本全体を見据えた国土の双眼構造ということで、国の出先機関を誘致するという狭義にとどまらず、西日本の中での地位を確立していくべきではないかと思います。以上です。

○御厨座長

ありがとうございました。はい、ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

はい、よろしく申し上げます。

○松原委員

全体の大きな話というのがちょっと得意ではないかと、今、みなさんの話を聞いて思ったのですが、私、先ほどちょっとご紹介しました、民間の団体を作ったきっかけというのが、東日本大震災の時に、防災だ、なんだということで、いろいろ国とか県とか市とかが計画を立ててしてくだっても、最後の最後はやはり人と人との目に見える範囲内の、人と人とのつながりというのが、その人を励まして、だんだ

ん元気づけて復興の力になっていくという、そういうことの根本が人と人とのつながりにあるのではないかなと思ったんですね。そう思った人が複数人いた。それが中核となって、一つの団体を築いていこうという、そういう発想になったんですね。本当に目に見える人と人とのネットワークというのが何をやるにおいても非常に重要だと思うんです。先ほどの還流型の社会であるとか、なんとかというのをおっしゃっていますけれども、例えば防災の話をするにしたって、防災ということに目的を持っているNPOとか任意団体とかというのは、その地域に非常にたくさんいると思うんですけれども、県を越えて、隣の、和歌山だったら、和歌山市は和歌山の北にあるんで、隣と言えば南大阪の泉南の地域ですけれども、そういうところでも同じようにそういうネットワークなり任意団体があるはずなんですね。でも、全く知らないんです。全く接点がない。だから広がりがいい。行政がいろんな情報を集めてそういうことをマッチングしてくださる、それで交流の機会をそれぞれに作ってくださるという、そういうことがあればどんどんネットワークが広がって行って、人と人との交流も広がっていく。それでそれぞれの地域の良さもまた広がるかもしれない。あるいはまったく別の、私たちの団体は単に防災のことだけをやっているのではなくて、働き方の問題とか、あるいは観光の問題とか、女性に対する暴力の防止とかいろいろやっていますけれども、そういうことについても、同じ目的を持つNPO等と情報交換できるかもしれない。だからそういうことで地道にどんどん広げていく、人と人とのネットワークが広がるシステムと言いますか機会を、行政の方でつくっていただければと思います。

民間の人は本当に力強くいろいろな分野で活動しています。いろいろな知恵をいっぱい出して草の根で活動していますので、それと行政が共同して、いろいろなことをするのがすごく効率的でありますし、効果が上がると思います。そういったことを考えて府県をまたいだ交流の橋渡しをしていただければなと思っています。

○御厨座長

はい、ありがとうございました。どうでしょう。はい、よろしく申し上げます。

○遠藤委員

北村委員から都市と地域のバランスがよいとお言葉があったと思いますが、皆さんの意見を伺っていると多様な要求というか課題があるわけですが、これは全て情報は内側に向けての共有と、それから関西圏域全体を一つの地域として例えば人口の問題、私がやっている空き家の問題もありますが、関西全体としては、どのぐらいのものを持っているのか、資源というか、課題というか、そのような課題毎の連携が各レベルで広がって、データを作って、外に向けての情報を発信していくということがとても大事だと思います。

○御厨座長

ありがとうございました。では、山口委員どうでしょうか。

○山口委員

今日の話をしていただいた時に小さなエリアにしか関わってない私がここに呼んでいただく理由は何かと思いながら、今日の話をして伺っていました。関西広域連合の立ち位置を変えないといけないんじゃないかという話があったが、ちょっと前だと国縣市町村がしっかりピラミッド構造になって、制度を運用していく、政策を実現していくという形だったが、大阪からも人口が流出している今の状況の中で、将来ここに住まう人たちが、どのように幸せに暮らし続けていけるのか、これだけ豊かな歴史・文化を守り続けてきた方々が、それを誇りとして住まい続けるために、どういうところが課題になるのか、何をしなければいけないのかということをおもったときに、先ほど分権型社会の実現にどう貢献するかという話がありましたが、見方を変えると本当に実施のやり方自体を変えていかないといけないときだと思います。

幸いなことに私は関西はその力がすごく強いエリアだと思っています。そういう文化を世界中に発信できるということを東近江に関わっているとすごく感じます。そのときに歴史を振り返ると、私のいる東近江市から生まれた近江商人は、北は北海道か

ら南は沖縄まで物と情報と人を顔の見える関係でつないでいた。当時はそういう社会ニーズがあって、それが成立していたといえればそれまでですが、今どうなのかというと、つい先日大阪のある進学校でお話をさせていただきましたが、ほとんどの高校生が自分の地元のものすら見ていない状態で教科書にあるものしか見ていない、なんならインターネットで世界中の全ての情報が得られるという自信はもっているが、その情報が全てだともしかして勘違いしていませんかという話をさせていただきました。やはり現場感であるとか、特に災害時が一番顕著に現れると思いますけど、顔を知っている、あの人のためならこの食べ物を送ってあげたいというような共感が人を動かしていくんです。私はそれが自治の基本だと思っています。

人の環流といったときに、ピラミッド構造ではなくこの広域連合だからこそできる、少なくとも関西の中の情報を一番よく知っているであろう組織になり得るだろうし、もっと言うと関西以外に人を直接顔の見える関係でつなぐ接点にもなれるのではないかと思います。ピラミッド構造に何十年も浸っている私たちはどうしても広域はより大きな組織がやってくれると思ってしまっている。だから市町村の職員は県が他の市町村と一緒に見てくれしていると安心していますし、県はおそらく他府県との調整は国がやってくれるものという認識があるのではないかと思います。実は答えのない時代であることを考えると本当に想いのある人たちが学び合い知恵を共有していくということなしにおそらく乗り越えていけないのではないかと。そこの手助けを広域連合ができれば他の地域ではできないまちづくりのバックアップができるのではないかと思います。上から引っ張っていくのではなく、逆に現場の皆さんがより動きやすくやりやすく自信をもっていけるようなサポートを何か一つでも施策として提案できたら、東近江としては大変ありがたい。東近江がすごいと言われるが、他の地域にもっと役立てていただけたらと思います。

○御厨座長

ありがとうございました。それでは飯尾さん、お願いします。

○飯尾委員

今日は皆さんの意見、大変勉強になりました。認識を新たにしたところもありました。今日一つ感心したのが事務局の説明の中で広域連合は一步一步やると最初に掲げていて着実にしたいとありました。空理空論で関西はこうだということではなく具体的にしたいと言っていることは良いことだと思います。さらにいただいた資料（資料7）に反映していないということが出ていたがこれは大切だと思います。議論いただいたから何でも反映しましたとか、できてもいないのにできましたというよりは、はるかに見所のある組織だなと思っているところです。

こういうところでは関西をどうしようかということを経験して、これはこれでものすごく良いことです。でも関西をどうしようかという中で、実現するというのを考えると、府縣市町村がすることは何かということがまずあって、さらにその上で府県と一部の市が集まっているこの広域連合ができることは限りがあって、良いことは良いけれど広域連合がやることは何かまでつなげるためには、ただ大きなことだけを言っても進まないということがあります。フォローアップで一番大切なことはできたことはもちろんできないことをもっとやりましょうということかということ、ちょっと違うところもあります。議論したけれども広域連合には必ずしも適切でないものも提言してあるので、実現していないものもある。それはなぜかということを経験したら、世の中では切り口を変えるとできることがあります。我々委員会としてもなぜこれができないのか、できていることももっとできるはずのことが、これぐらいしかできてないものも、こういう表でみるとできたことになって、ただ観光客が大勢きたので数値上できたように見えるだけで本当はやり方を変えればもっとできたことがあるとか、そういうことを議論するのが大切でしょう。

こういうことをしたいけれどもちょっとやり方を変えたらどうだろうか、例えば今日の話で出てきたことでいうと広域連合に入っているから構成府縣市でこういうことをやりましょうと考えていたけど、役所だから付き合いにくいので広域連合は役所

ではあるけれどちょっと中途半端なので権限もないからNPOの方とはかえって付き合いやすいとか、お手伝いをすると警戒されないとか、補助金を期待されないとか、色々良いことがあるかもしれない。そういうことでいうと直接住民の皆さんとやってみるとかを考えた方がよい。

広域連合に入っていない市町村からご意見は聞いているようだけど何が困っているかということを知っていて、できることは何か、こんなことがあるけど府県でやることはありますかとか、手をあげてくれませんかといって、全体でなくてもどこかの府県がやって知恵だけあたえればそんなことがあったんですかと、じゃあやりましょうとなるのもひとつなのではないでしょうか。

最終的な目的は関西が良くなることと発展すること、そのときに一番大切なことは、何か大きなこと、創生戦略のときは人口が何万人と書いてあるけどこれは結果なんです。こんな話をすると嫌われるかもしれないが、私、最近地方創生で引っ掛かりがあるのは、私が東京にいるからかもしれないけど最近東京ばかり若者が行くから大学の定員を減らしましょうと、ただこれをあまりやり過ぎると田舎に生まれたのでこのことが勉強したかったけど東京のそこの大学しか教えていなかったから自分は勉強ができなかったというようなことになってしまう。そういうやり方とは違って、いやいやあそこの大学は田舎にあるけどこんなに素晴らしいというので世界中、日本中から人が集まっている。それをあこがれるから、その地元の高校は世界中から来る人と競争して勉強してその大学に入るために勉強しだした。そうすると高校や中学も教育に力を入れたから、田舎だけど教育レベルが高いから他所から若夫婦が子どものために移住しようという動きが出た。中の人はい他所に出るかもしれないけど入ってくるのは倍ぐらいあると、田舎の方だったけど栄えてきたという道筋がよいように思います。

私から言うと振興はあとからくると考えないといけない。今はおかしいから何か歯止めをかけようとするよりかは、良いところを伸ばしていくのが良い。ある特定の

分野を一生懸命やることを、みんなで話あってやって、そこに一生懸命やったらなるとか、そういう話なのです。

関西で目指すべきは広域連合でいうと全ての府県が全て同じように発展するのではなく、うちはこの分野を伸ばすということを調整して、他所のところが譲ったりしてそういう調整があってというのが必要です。なんとなく足し算にしそうだけど、やっぱり他所で掛けてみたり、割ってみたりみたいなこともあるといいのではないかと感じました。今後の議論を楽しみにしています。以上です。

○御厨座長

ありがとうございました。思った以上に皆様からかなり積極的なご意見を開陳いただきましてありがとうございました。事務局はこの出た意見を私が2、3分のうちにちゃんとまとめてそのまとめたもので次へ行こうという風な企みを持っていたようですが、これだけ多様な意見を2、3分でまとめるのは非常に困難であります。ただいくつかの傾向性はあったように思います。

1番は都市と農村のバランスが非常によいということですね。そういうお話から発展性がきていて、都市と農村のバランス、人と人とのつながりのようなものもやればできる。つまり、関西広域連合全体の中で、あるいはその周辺に向けてその情報と人をつないでいく努力をそれぞれのパートがやっていくとこれはかなり積極的に、関西広域連合が何ができるのかと言っているときに、おそらくそんなに金もかけずに情報と人をつなぐという意欲ということだけで、やれることでつないでいくということが、これはあるんだという気がしました。またその中でお話がありましたように、具体的な物でつながっていく、その農業とかそうですけども具体的な物や物流でつないでいくという、ちょっとした工夫でつないでいく、このつなぐという言葉と交流という言葉、情報ということも入りますが、これは何か一つのタームであって、発展していく話があるのかなというのがありました。

それから2番目はやはり多くの方が指摘されている観光であります。単なる観光、

要するに関西広域連合全体で云々という話ではなくて、その中で外国人がいっぱい来すぎているところがありそうでないところがあり、そういう情報を人と人をつながながらやっていかないと、ただ単に指をくわえているだけではその傾向性は変わらないだろうということがあります。ですからとにかく発信する努力をどうやっていくのか、これも同じ話になってくるんですが、観光の問題でももちろん税金の問題とか具体的な問題もありますけど、今言った人と人のつながりの中で観光を関西としてはどうおさえていくか、他の東京や何かとは違うやり方があるのではないかというのが2番目のまとめになる。

3つ目はそれを含めて、もうちょっと具体的な新幹線の話であるとか、観光でももうちょっと積極的に整備した方がいいという、そういうものがこれは3つめになるのではないかと思います。

そして4つ目として独立をさせるかですけど、一つは人の環流、これまでは要するに関西広域連合というピラミッド構造、つまりある制度があるものとして考えるのをフレキシブルに考えてはどうかと、動かさないものと考えてのではなく、叩いてみたらソフトにできることがあるという、これは非常に抽象的ではあるけれど、ものの視点としては重要な点であり関西広域連合も確かに歴史をもってしまっている。こういう問題の大変なのは歴史を持つと言うことは、そうと意識しなくてもその歴史に案外左右されてしまう。ここでもう一つ大事なのは、関西広域連合の歴史というのは、もちろんそれを離れてこの議論はできないけれども一旦はそこによって束縛されているようなものを開放してみる、これは思考実験でいくらでもできます。そういう中で我々の議論を発展させていくという、4つぐらいの幅のあるご意見があったと思っています。相当、無理したまとめかもしれませんが、私がチェアマンをやっているのは無理くりまとめろということだと思っているので、とりあえずこのようなまとめをいたしました。